

事業実績書

団体名

吉敷地区地域づくり協議会

1 地域づくりの活動方針（テーマ）

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり、「若い世代とともに築く 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

活動目標1 「地域振興」 ふれあいと交流による元気で住みよいまち

活動目標2 「地域福祉」 とともに支え合い心豊かに暮らせるまち

活動目標3 「安心・安全」 みんなで協力してつくる安全で安心なまち

活動目標4 「環境づくり」 美しい自然をみんなで守る快適なまち

活動目標5 「地域個性創出」 固有の歴史や文化による個性あふれるまち

2 今年度、重点的に取り組んだ視点（事業）

①	視点	コミタク制度の導入によるコミュニティタクシーの周知と利用促進		
	事業名	コミュニティタクシー運行事業	決算額	81,600円
②	視点	誰もが集える場の提供による地域住民の交流と見守る関係づくりの促進		
	事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	0円
③	視点	動画による活動団体の紹介と、地域の景色や行事の記録		
	事業名	動画による活動団体の紹介と、地域の景色や行事の記録	決算額	50,000円

3 今年度の重点的視点（事業）に対する評価

検証（成果、来年度以降への改善点等）	自己評価
<p>①高齢化の進展に伴い、自家用車に代わる移動手段として、山口市の補助制度を活用し、コミュニティタクシー運行に取り組み、実証運行から本格運行に移行しました。本格運行においては、運行経費の3割を地元が運賃収入と町内会・自治会や企業等からの支援金で賄うこととされていることから、特に利用促進に取り組んでいます。しかし、現状では運賃収入だけを持って運行経費を賄うのは困難な状況になっているため、該当町内会・自治会に支援をお願いするとともに、吉敷地域の事業所の方々に吉敷の全世帯に配布する時刻表への協賛広告をお願いすることとしました。また、該当町内会の独自のアイデアで、コミュニティタクシーを活用するイベントを計画するなど、特に活用促進・周知には取り組みました。タクシー業者さんや運転手さん、該当町内会長さんと、利用促進について忌憚のない話し合いができる交流会を催すなど、利用促進についても継続して取り組むこととしています。</p>	◎

<p>②コロナ禍が明け、4年前の持ち越した課題について検討し、10月から配食数に制限を持たせる形で再開しました。</p> <p>コロナ禍により、えがお食堂よしきが開設できない間、NPO法人明日花プロジェクトが推進する「エール弁当」事業に積極的に協力し、ひとり親家庭へ月一回お弁当などを渡しています。えがお食堂よしきを再開した今後は、エール弁当事業に協力できる吉敷地域の新たな形を模索し、継続して取り組む予定です。</p>	◎
<p>③コロナ禍が明け、地域の美しい自然の移り変わる景色やふるさとまつりなどの地域住民が参加する行事等を撮影し記録に残しました。撮影した動画は、地域住民に紹介することで、団体活動の拡充や地域への愛着の醸成に活用します。</p> <p>引き続き、地域の紹介や地域住民へ広く知らせることでPRに努め、地域への愛着が持てるような企画立案を図ります。</p>	○

◎（大変よくできた） ○（概ねできた） △（課題が残った） ×（全く出来なかった）

4 総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。今年度は、コロナ禍が明け、従前どおりの事業展開ができた年だったと思われます。

地域住民の協力のもと進めていくものであるまちづくりの「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神は、コロナ禍による4年間の事業の停止の影響は大きく、地域住民の個々の関係が寸断されているように感じました。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、年を重ねるごとに応募作品の増加が見られるようになり、事業が定着してきたと感ずることができました。また、様々な交流会はじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、4年前の形で開催することができました。しかし、4年間の空白は、事業のあり方や地域住民の関わり方に影響を及ぼすものもあり、新たな課題も見つけました。仕切り直しをする時が来たと、新たな課題として受け止め、地域住民の声を聞く機会を作りながらまちづくりに取り組みます。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会などもコロナ禍の中で従前どおり開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから取り組んでいるコミュニティタクシーは、実証運行を終了し、「吉敷地域コミュニティタクシー運行協議会」を設置し、本格運行を開始しました。特に利用促進を検討し取り組んできた成果が、利用者数の増加としてじわじわ現れてきています。また、本格運行に伴う、地域負担については、この事業が地域全体で取り組むことから、地域の商工会や該当町内会との連携により、協賛金を募ることも協議され、協賛金をいただくこととなりました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら7年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価を得ています。

地域の史跡等の取り組みについては、栄華を極めた大内氏にゆかりのある肥中街道沿線の他地域との交流を図るとともに大内氏の歴史講演会を開催し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	6,673,425円（交付金4,746,764円） （内自主財源：1,926,661円）
事務局の運営体制	<p>（事務員等の雇用人数） 事務局長1名 事務員3名</p> <p>（運営費の主な内容） 事務局人件費、事務費</p> <p>（成果・評価） 吉敷地域は、地域づくり協議会業務をはじめ、自治会業務、地区社協業務、地区社協が受託する指定管理業務など多岐にわたる業務を4人体制で担っており、事務局員は慌ただしい毎日を過ごしました。こうしたことから、都度、地域づくり協議会役員とは運営や業務について協議しています。また、今年度は、事務局長の病欠により事務局員始め、交流センター職員にも大きい負担を掛けることになりましたが、連携した業務に取り組むことができ、事業を進めることができました。このように地域交流センターとは連携した業務を進めるために意見交換に努めています。今年度は、コロナ禍が明けてコミュニティタクシー本格運行の年となり、本格運行移行前には、利用促進のために当初の運行ルートの変更等を実施したり、広報紙等による呼びかけをするなど、利用促進に努めてきました。また、本格運行移行後は、事業費の3割を地域が負担するという本事業の仕組みから、地域づくり・該当自治会・町内会、地域の商工会が一体となり、協賛金負担のあり方を協議するなど、「自分たちのまちは自分たちの手でつくる」という機運の醸成も図られました。</p> <p>（今後に向けて） 地域づくり活動や地域福祉活動支援など、多岐にわたる業務に事務局長1名、事務局員3名体制で効率的に遂行するため、業務の棲み分けや、事務分担の見直しなどに取り組むことが必要であり、地域づくり関係団体や特に地域交流センターとの連携が重要です。</p> <p>年々業務が増加していることから、事務局の負担も増えるばかりですが、少しでも負担を軽減するため、引き続き、地域づくり協議会役員や地域づくり関係団体と協議・連携に努め、事務局運営を行なっています。特に、協働によるまちづくりを推進するためには、地域内の事業の整理や、事務分担等含め、地域交流センターとは協議・連携しながら行うことが重要と考えます。</p>

(2) 地域振興

事業名	ふれあいネットワーク
事業費	476,484円（交付金276,484円） （内自主財源：200,000円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」において、地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動をはじめ、各種イベントや行事等の情報発信、見守り活動から生まれた「ホウちゃん、ベンちゃん」の積極的な活用などに取り組みました。昨年度作成したホウちゃんベンちゃんトートバッグも人気があり、それをもち歩くという活用の推進を図りました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） ふれあいネットワークの活動の一つでもある「あいさつ運動」では、あいさつの日に合わせて登校時間帯に立哨し、地域ぐるみであいさつ運動に取り組むとともに、応募のあった標語の中から選出した作品を地域情報紙「ふるさとだよりよしき」に1年間掲載します。また、昨年度更新された一体的な見守りのためのグッズに加え、マスコットが印刷されたトートバッグも制作し、その活用にも取り組みました。</p> <p>（評価） 年間を通して、ふれあいあいさつ運動に取り組むことができました。吉敷地域では「あいさつの日」の立哨箇所工夫を加えながら、活動に参加する人の増加に取り組みました。また、吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」により、地域住民や地域づくり関係団体と協議・検討することができるようになりましたが、協議会を開催することはままならず、関係団体からの課題を共有することができなかつたことが課題として残りました。一方、地域内の様々な情報がメールで配信することができ、一体的な活動のためのグッズを活用することができました。</p>

	(今後に向けて) 引き続き、「ふれあいネットワーク協議会」において吉敷地域の見守り活動を総合的に協議・検討し、必要に応じてグッズの作製に取り組み、見守りグッズを活用した地域の見守り活動を推進します。
--	---

事業名	コミュニティタクシー運行事業
事業費	81,600円 (交付金81,600円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 旧出張所・公民館跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーの運行を実施し、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p> <p>(成果) 高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に取り組み、実証運行終了後は、本格運行協議会を設置し、本格運行に沿った運営を実施しました。本格運行に移行すると、地域負担が生じるため、関係者がコミタクの必要性について再確認するとともに、運営の継続のために協議を重ね、吉敷地域に沿った形を作りました。乗車率のアップについては、継続して取り組み、今年度は、運転手さんを含む関係者の交流会を設けるなど、工夫をしながら、利用者側、運営側からの意見を聞き、今後活かしていくこととしました。</p> <p>(評価) 跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、本格運行に取り組みました。コロナ禍の影響から、思わしくなかった乗車率も工夫を重ねるなど、乗車率のアップに取り組みました。その結果、コロナ禍も明けたこともあり、増加傾向がみられるようになりました。</p> <p>(今後に向けて) 本格運行協議会に、地域の商工会をメンバーに入れるなど、地域で取り組む事業として位置付けています。今後も事業が継続できるように、地域に沿った運営に取り組みます。事業費の3割が地域負担となる本格運行において、少しでも負担軽減になるように、引き続き、乗車率のアップには努めます。</p>

事業名	夏まつり・ふるさとまつり
事業費	696,418円 (交付金465,501円) (内自主財源:230,917円)
事業概要	<p>(実施内容) 夏祭り、秋祭りの開催</p> <p>(実施時期) よしき夏まつり8/13、吉敷ふるさとまつり11/21</p> <p>(参加人数) 延べ350人</p> <p>(成果) コロナ禍では2年間中止となった夏まつり。ふるさとまつりはコロナ禍における可能な限りの開催を2回経験し、今年度は、両祭りをコロナ前の従前のかたちで開催することができました。しかし、コロナ禍で中断された地域行事の影響は大きく、みんなでまちづくりを進めていくという機運が寸断されたように感じられます。今後は、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という原点に戻り、仕切り直しをしながら取り組むことが必要だと考えています。</p> <p>(評価) コロナ禍で中止を余儀なくされた時期を過ぎて、再開した以前と同様の形のお祭りにより、新たな課題も見つかりました。関係者でそのことについて協議する機会を設け、お祭りを開催する本来の目的の再確認をするとともに、運営を進めるための基盤づくりが確立されつつある若い人を集めた企画委員会を中心とした委員の自由な発想を取り入れる工夫も必要だと考えます。</p> <p>(今後に向けて) 若い人の集まる企画委員会を継続するため、事務局・センターとの役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには委員どうしの交流も必要であるため、その交流にも取り組みます。また、企画委員に参画していただけの人の発掘にも努めます。</p>

事業名	よしきフォトコンテスト
事業費	488,883円（交付金488,883円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） テーマに沿った写真のコンテスト</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民や地域づくり関係団体で組織する実行委員会の中では、例年通りイベント等への参加者の増加を図るとともに、より多くの写真の応募につながるよう検討を行いました。LINEでの応募を開始してから、気軽に応募ができるようになり、地域内外から235点の応募作品を集めることができました。また、費用対効果の面から意見が多かった応募写真をカレンダーにして配布することについては、実行委員会の中で意見を交わし、印刷はせずに地域づくり協議会のウェブ上に掲載し、広く地域住民に知らせる方法を取っていますが、ダウンロード数を考慮し、この掲載についても実行委員会において検討する予定です。協賛企業が多くなってきたことから、新たにつくっているフォトコンリーフレットにより、多くの方々に吉敷地域のことを知っていただくとともに地域の魅力を再発見していただきました。引き続き、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるフォトコンテストの開催に取り組みます。</p> <p>（評価） 誰もが気軽に参加できるように、フォトコンテストを広報したり、応募方法にLINEを追加することで、交流したり、ふれあう人々の写真を広く募集することができました。地域内での交流の場や、地域の四季折々に姿を変える美しい景色を広く紹介するための応募作品などを活用した「よしきフォトカレンダー」の形は地域づくり協議会のウェブ上での紹介に変わりましたが、ウェブサイトでは、閲覧、ダウンロードする人もあり、フォトコンへの興味深さが分かります。カレンダーの作製は取り止めましたが、受賞者全員の作品を載せたリーフレットは、毎年好評を得ています。応募する人の定着化も見られ、吉敷フォトコンが定着しつつあることが感じられます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域住民や地域づくり関係団体が集まる実行委員会でも、誰もが気軽に応募できる「よしきフォトコンテスト」が継続できるように進めていきます。</p>

事業名	人材発掘に向けた交流事業
事業費	152,740円（交付金152,740円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当し、実施に向けて協議しました。若者対象の事業については、地域内の田んぼで古代米を育てようという計画がなされましたが、実施には至りませんでした。次年度の進め方についても協議する機会を設け、今年度叶わなかった古代米づくりを計画しました。アクティブエイジの交流会は、継続し開催することができました。昨年度は、計画策定時に「若者とともに築くまちづくり」を取り上げたことから、地域内の若者を発掘することを大きい目的としましたが、今年度も同様に、「赤田神社に若い人が集まるのはなぜ？」と題し、まちづくりと一緒に進めていく人財発掘の場としました。赤田神社のイベントに自ら参加している若い人たちの活動のきっかけや考え、地域に対する気持ちなどを、聞き、それを基に会場の参加者と意見交換をしながら進める対話形式で行いました。まちづくりを進めていく人の年代が高くなる傾向にある現状ですが、交流会には、若い人も多く集まり、賑やかで和やかな交流会となりました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 50人</p>

(成果) 交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「アクティブエイジ」「若者」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することにしています。日々とどまることができない「地域づくり」には、常に地域内の人材発掘が重要なため、この事業は大きい役目を持っていますが、「アクティブエイジの交流会」では、多くの若い人が集まり、賑やかに交流を楽しむことができました。また、その交流会では、現在地域づくりに関わっておられる若い人たちのセッション形式での意見交換を参加者が聞き、この事業をきっかけにして、一緒にまちづくりへの参画を考える人が増えることを期待しています。

(評価) 地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つです。「若者」のYoshikiわくわくファームランドの交流事業の実施には至りませんでした。次年度に向け農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画については、運営スタッフにより協議しました。次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。

一方、アクティブエイジの交流会では、若い人も集まり、対話形式という新しい交流会の形で進めることができ、和やかな雰囲気作りもでき、和やかに交流会をすることができました。新たな若い人の発掘は、各々が心に秘めたものがあつたと感じられました。今後も継続し、楽しい交流会を工夫しながら開催し、若い人の発掘を試みたいと思います。

(今後に向けて) 引き続き地域交流センターと連携しながら、地域づくり協議会との事業整理、事業担当等を協議しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。

事業名	広報活動
事業費	435,550円(交付金435,550円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 地域づくり関係団体や地域住民等の参画を得て設置した「広報委員会」により、地域住民に対して発信していきたいことや、お知らせしたいことなどを互いに持ち寄り、広報紙やウェブサイトなどを活用して、地域の様々な情報を発信しました。</p> <p>(実施時期) 通年 (参加人数) 20人</p> <p>(成果) 地域情報を広く収集しながら、魅力ある広報紙の作成やウェブサイトの充実に取り組みました。また、広報紙に新たなコーナーを設けたり、新たな広報委員も広く地域住民から募集し、新たな委員が参加するなど、地域に開かれた広報委員会運営に努めるとともに、町内会・自治会未加入者にも広報紙を手にとっていただけのように配布先の拡大などにも取り組みました。こうした結果、地域住民からは一定の評価が得られています。</p> <p>(評価) より多くの地域住民のもとへ広報紙を届けたいという広報委員の地道な活動により、地域に広く知っていただける広報紙となっています。吉敷地域の魅力を届けたいと、広報委員会では活発な意見も多く出るようになり、同時に広報紙に載せたい身近な記事も持ち寄るようになり、地域住民に日頃から防災に関心を持っていただくようになりました。所属する団体から選出された委員が、活発に意見が出せる委員会になるように進めていくことが重要と思われます。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、紙面の充実や配布の拡大等に取り組んでいきます。</p>

事業名	人権学習の推進
事業費	170,136円（交付金170,136円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 各種啓発活動に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 2月</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 交流センターに事務局を置く地区人権学習推進協議会では、偏見や差別のない地域社会の形成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、幼稚園、小学校、中学校と連携した人権学習の啓発活動に取り組みました。</p> <p>（評価） コロナ禍が明け、例年どおりの活動ができました。小学校、中学校との連携により、授業を通して人権の大切さを学ぶ機会を作ることができました。今後も学校等と連携しながら、思いやりのある心を育む人権学習の推進に取り組むことが必要と考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、偏見や差別のないふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりに取り組んでいきます。</p>

事業名	こどもドリームプロジェクト
事業費	1,318円（交付金1,318円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷出身のプロサッカー選手である原川力選手の帰山に合わせて、「こどもドリームプロジェクト吉敷～Jリーガー原川力選手によるサッカー教室～」を開催していましたが、今年度は、地域内で活発に創作活動をされている画家を講師に、低学年を中心とした子どもの自由な作品制作の機会を設けました。</p> <p>（実施時期） 2月</p> <p>（参加人数） 10人</p> <p>（成果） コロナ禍の影響を受け、4年間開催することができずに終わっていたこの事業ですが、今回、自分が住んでいる近くに、有名な画家が居られることを知り、憧れをもって自分の好きなことを進めていくことを知るきっかけを小さいうちに体験することができました。</p> <p>（評価） スポーツ選手に特化した事業になっていましたが、身近なところにも素晴らしい人が住んでおり、地道な活動をされていることを知る機会の創出ができました。</p> <p>（今後に向けて） 今後も引き続き、地域の子どもたちが夢を持てるように、またふるさと吉敷に愛着が持てるように、吉敷にゆかりのあるプロスポーツ選手やアーティストとのふれあう機会、ふるさとの自然にふれあう機会の創出に努めます。</p>

事業名	ホテル観賞の夕べ
事業費	67,100円（交付金67,100円） （内自主財源：0円）
事業概要	<p>（実施内容） ホテル観賞を通じて住民の地域に対する関心や愛着を深め、自然環境の保全に対する意識の高揚を図るとともに、一層の地域住民の交流を図ります。</p> <p>（実施時期） 6月</p> <p>（参加人数） 0人</p>

	<p>(成果) 以前実行委員会で開催していた子どもたちの発表を兼ねたお祭り形式の内容とは違う形でのホタル観賞の夕べを開催しました。新たに参画した若い総務・企画委員により赤田神社の幻想的な雰囲気似合う形を模索し、ハンドパン演奏などの演奏を催し、静かにホタルを鑑賞する形での開催としました。今後は、実行委員会との関係を整理し、どのような形での開催にするか協議が必要と思われます。</p> <p>(評価) 吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホタルが乱舞する地域として知られており、長い間小学校や地域住民によりホタルの増殖・放流事業を継続し取り組んでいます。そのような中、ホタルを通じて地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図ったり、交流によるまちづくりを推進するために、地域ぐるみでイベントに関わることは大変重要なことと思われます。コロナ禍により中止が続いていたホタル観賞の夕べは「プレ」ホタル観賞の夕べとして、新しい形で開催することができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、関係団体との連携により、多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながる「よしきホタルの夕べ」の開催に取り組みます。また、実行委員会のあり方については、検討が必要だと考えられます。</p>
--	--

事業名	動画による活動団体の紹介
事業費	50,000円(交付金50,000円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 団体活動動画等の活用による団体活動のPRと拡充を図り、地域住民の参加を広く呼びかけるとともに、参加体験を通して団体活動の拡充に努めます。また、吉敷の美しい自然の移り変わりや地域住民の活動等を動画に残し、地域の紹介や地域住民へ広く知らせることでPRに努め、地域への愛着が持てるような企画立案を図ります。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p> <p>(成果) 地域交流センターを定期的に利用して活動している団体の日頃の様子を動画にし、令和4年度の吉敷ふるさとまつりの会場において紹介しました。地域内で咲く桜の花や春の花、ホタルの乱舞などを記録に残しました。</p> <p>(評価) 日頃見ることが少ない団体の活動風景は、知り合いの活動や、新しい活動団体の発見につながると思われます。季節ごとに咲く花や景色の移り変わりは、その瞬間が大切なことから、日頃からの情報収集などにも努めることができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、地域で活動している団体の活動風景を動画に収めたり、美しい地域の風景等を残し、広く地域住民に紹介することで、団体活動の拡充や地域への愛着の醸成に努めます。</p>

(3) 地域福祉

事業名	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会
事業費	255,566円(交付金185,944円) (内自主財源:69,622円)
事業概要	<p>(実施内容) 親睦やふれあいを目的とした大運動会は4年ぶりに以前の形で開催することができました。親睦ゴルフ大会は、1年1回プレイし交流を楽しむことができましたが、に多世代交流グラウンドゴルフ大会も継続し開催することができ、多くの地域住民の交流を図ることができました。</p> <p>(実施時期) 11月・3月</p> <p>(参加人数) 500人</p> <p>(成果) 大運動会は、地域で一番大きな交流の場であり、様々な年齢層の住民の方々が交流を深めるとともに、外に出かけ、体を動かす健康づくりにもつながる地区を越えた交流ができる大きなイベントであり、親睦ゴルフ大会も地域住民の交流ができるイベントとなっています。また、グラウンドゴルフ大会は、大人と子どもがチームを組む地域独自のルールで楽しみながらプレイすることが定着し、世代を超えた交流が図られています。</p>

	<p>(評価) どの大会も世代を超えた交流ができるようになっていきます。大運動会、多世代交流グラウンドゴルフ大会の開催により世代を超えた交流や久しぶりに会う友人との交流を楽しむことができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、多くの地域住民が参加しやすい事業となるよう、次年度に向けて準備を進めていきます。</p>
--	---

事業名	えがお食堂よしき
事業費	0円 (交付金0円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 40人</p> <p>(成果) 明日花プロジェクトが実施している「エール弁当配付」の事業には、昨年度に引き続き積極的に参加するとともに、地域のボランティア活動である「ふれあい型給食事業」の9月再開を機会に、10月からえがお食堂よしきもコロナ禍前の課題を考慮し、配食数を限定し再開しました。当地域の事業目的が、地域食堂を通じて孤食を防ぎ、人材(ボランティアスタッフ)の発掘や育成、多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむこととしていますが、来場者は食事と交流を楽しむことができました。</p> <p>(評価) 地域住民のコロナ禍の影響を受けているひとり親家庭と、同じくその影響から需要が落ち込んでいるお弁当屋さんへの支援を目的にした「エール弁当」を進めている明日花プロジェクトの事業に積極的に参加するとともに、今年度は、コロナ禍前と変わらないスタッフの協力も得ることができ、えがお食堂よしきの再開ができました。コロナ禍前までの課題を実行委員会で検討し、配食数に制限を設け再開しました。スタッフも含め、食事に来られた地域住民の笑顔から交流の場の提供ができていると思われまます。</p> <p>(今後に向けて) 地域の温かい気持ち(募金、寄付など)から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、毎月1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、令和元年度の課題となっていました。配食数を限定するなど工夫をしながら再開したえがお食堂よしきが広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。</p>

(4) 安心・安全

事業名	地域防災体制の充実
事業費	150,000円 (交付金150,000円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 地域広報紙などを活用した防災知識の普及・啓発や防災講演会・学習会などの開催に取り組みました。また、避難に係る防災資機材の整備を進め、交流センターに設置するとともに、広報紙面上に新たなコーナーとして「みんなで防災」を設けることができました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p>

	<p>(成果) 地区防災会から選出した広報委員により、地域住民に対して活動内容をウェブサイトで紹介したり、自主防災組織等の必要性を伝えてきました。避難時に役立つ防災資機材を展示したり、避難場所での心構えや非常食の試食会など、地域防災事業の推進に努めてきました。昨年度から継続して広報紙面上に新たな防災のコーナー「みんなで防災」に記事を掲載し、地域住民に広く防災に対する啓発活動もできました。</p> <p>(評価) 地域住民に対して防災意識の高揚や防災知識の普及・啓発などを行うとともに、組織内で地区防災会としての避難所運営について行政と協議ができ、一定の事業推進ができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、地域防災体制を充実していくため、各町内会・自治会から選出された防災委員との連携体制などの地区防災会の組織強化を進めていくとともに、地区防災会の果たすべき役割をはじめ啓発活動に努める予定です。</p>
--	--

事業名	交通安全・防犯対策
事業費	230,000円(交付金230,000円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 交通立哨や各種交通安全講座、青パトによる巡回などに取り組みました。うそ電話詐欺防止キャンペーンや防犯パトロール、交通安全教室の開催などに取り組みました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p> <p>(成果) 地域住民に対して、うそ電話詐欺防止キャンペーン、防犯パトロールなどに取り組み、委員が率先して交通立哨などを実施しながら、交通安全や防犯対策等の必要性を伝えてきました。</p> <p>(評価) 地域住民に対して、交通安全やうそ電話詐欺防止への普及・啓発などを行ない、定例的に青パトによる巡回を実施したことにより、地域住民が交通安全やうそ電話詐欺などを普段の生活の中で意識することができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、活動を通して地域住民に交通安全・防犯対策等の必要性への周知に取り組みながら、地域の交通安全・防犯対策を進めていきます。</p>

事業名	反射鏡の充実
事業費	150,000円(交付金150,000円) (内自主財源:0円)
事業概要	<p>(実施内容) 町内会・自治会等からの要望に基づき、反射鏡を整備しました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p> <p>(成果) 町内会・自治会からの要望に基づき交通安全対策を実施しました。</p> <p>(評価) 路面表示により交通事故防止に寄与しました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、町内会・自治会を通して地域住民に補助制度を周知しながら、地域の交通安全対策を進めていきます。</p>

事業名	青少年の健全育成
事業費	74,443円(交付金74,443円) (内自主財源:0円)
	<p>(実施内容) 青少年の健全育成のための見守り活動や各種啓発活動に取り組みました。また、「未来づくり促進特別交付金」による新たな事業「吉敷まるごとラッピングミュージアム」にも取り組みました。</p>

事業概要	(実施時期) 通年
	(参加人数) 地域住民
	(成果) あいさつを通じて、地域住民どうしが顔見知りになるとともに、見守り活動を拡大することから、青少年の安心安全、犯罪の抑制を図ることができました。また、昨年度から取り組んでいる新たな事業については今年度は事業内容を検討し、昨年度とは違う事業を実施することができました。
	(評価) ふれあいネットワーク協議会の組織の一員として、青少年の健全育成を地域ぐるみで進めることにより、みんなで協力してつくる安心で安全なまちづくりを推進することができました。
	(今後に向けて) 引き続き、関係団体とともに活動を通じ、連携を取りながら青少年の健全育成のための対策を進めていきます。特に、子ども110番の家の強化を図ります。次年度開催する予定の「吉敷まるごとラッピングミュージアム」に取り組み、地域住民の交流を図ります。

(5) 環境づくり

事業名	環境づくり
事業費	299,624円 (交付金263,624円) (内自主財源: 36,000円)
事業概要	(実施内容) 環境美化活動の推進と自然環境の保全に取り組みました。
	(実施時期) 通年
	(参加人数) 地域住民
	(成果) 関係団体との連携のもと、美しい自然をみんなで守る快適なまちづくりを推進することができました。特に、今年度は、当協議会が管理するふれあい花壇の周りに、他の補助金事業を取り入れ、どうだんつつじを移植しました。
	(評価) 関係団体からの課題を見つけ、その解決のために関係団体との連携のもと事業に取り組んだことは、今後も継続して取り組む関係性ができてきたものと思われれます。
	(今後に向けて) 引き続き、関係団体との連携を強化し、美しい環境づくりを目指しながら快適なまちづくりを推進します。

事業名	ホタル増殖・放流事業
事業費	142,756円 (交付金91,055円) (内自主財源: 51,701円)
事業概要	(実施内容) 今年度は、学校、地域、行政の連携により、5月には河川清掃、6月にはホタル採取を行いました。今年度の「ホタル放流の集い」の式典では、ホタル委員会の児童の飼育活動の発表と俳句の表彰を行うことができました。
	(実施時期) 5月～9月
	(参加人数) 20人
	(成果) 毎年活動によりたくさんのホタルが飛び交っていますが、今年度も昨年度に引き続き、飛んでいるホタルの数は少ないように感じました。来年度は、ふるさと川の川にたくさんのホタルの乱舞を期待したいものです。
	(評価) 地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高めるように、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができることは、改めて有意義な事業だと考えています。

(今後に向けて) 引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。

(6) 地域個性創出

事業名	文化振興
事業費	849,623円(交付金756,723円) (内自主財源:92,900円)
事業概要	<p>(実施内容) 郷土学習講座の開講、文化財の活用に向けた調査・検討など、文化による地域づくりに取り組んでいます。案内板の整備や文化遺産資料の収集、文化の保存・継承に取り組みました。コロナ禍の影響を受け、散策イベントは中止となりましたが、郷土学習会には、地域を超えた参加者も多く、好評を得ました。また、国指定史跡の凌雲寺跡の活用については行政と連携のもとに取り組みました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 100人</p> <p>(成果) 例年好評を博している散策バスツアーは実施することができました。その他、地域づくり協議会のウェブサイトにて肥中街道の取り組みを掲載するなど広報と整備の充実に努めました。昨年に引き続き、古文書を教材とした「古文書輪読会」も開催しました。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、広報紙で文化振興協議会の活動等を紹介し、文化の保存・継承に取り組みました。歴史的な文化遺産を目で見て認識することができるようになったことの意味は大きいと感じています。</p> <p>(評価) 大内氏の海外通商ルートでもあった肥中街道を演題とした講演会を開催したところ、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。地域住民が肥中街道に興味のあることが分かります。交流センター駐車場に設置した肥中街道の拡大案内看板の設置や凌雲寺跡の案内板の設置により、住民に吉敷地域を散策してもらうための基盤づくりを図ってきました。大看板の前に立ち止まり、見入る地域住民が増えていることから、関心のあることが伺えます。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組み、文化による地域住民の交流をさらに進めていきます。</p>